

大ききましこに大きし、諸事ましこにかはりなし、

〔飼鳥必用〕下大。ましこ。小。ましこ。萩。ましこ。鳥一名萩共云

右何れも鳥は日光山より多く出る鳥也、照色はいろく有極赤きを上とする、但し萩ましこは黒く紫の毛色有雌雄はよく分る也、江戸にても大ましこ、小ましこ、照に甲乙有故、猿ましこ、菊ましこ共云也、餌飼人々知る處也、

〔夫木和歌抄二十七〕昔を思ふといふことを

源仲正

ましこゐるゐのくつちはらうちはらひみきはかたてし昔こひしも

十題百首

寂蓮法師

時雨こし木すゑの色を思へとやえだにもきゐるてりましこ哉

正治二年百首御歌

第三のみこ

冬がれのをかべに來ゐるてりましこ紅葉にかへるこすゑ也けり

〔武江産物志〕山鳥類 ましこ 目黒

野子
〔本朝食鑑六〕野子林禽

頭背灰赤色、眉白、頬白、頬下及頰深紅色、翅青羽、尾黒、兩脇亦青腹白、其聲艶

〔大館常興日記〕天文十一年閏三月廿五日のこ鳥一、富はら持參也、仍給候御太刀遣之也、

〔喚子鳥下〕粒餌小鳥の分 何にても水を入る

のじこ ぶがひ すび、あは、ひ、米、すり、分、よし、

大ききすゑめに小ぶり、けいろすゑめにあをくきなり、むねはら尤きなり、さへづり高音にてす
すねも有、さゑづりおもしろき鳥なり、

鳥のじこ ぶがひ すび、あは、ひ、米、すり、分、よし、

のじこ